

< 札幌市：都心部交通実験プロジェクト >

施策名	都心部交通実験プロジェクト
取り組みの背景 地域の交通環境問題 行政・市民ニーズ 交通基盤シーズ など	背景：「魅力的な都心の創出」を最終目的に、平成４年３月に「都心交通対策実行委員会」が設立され、違法駐車防止活動を主体とした取り組みを実施してきた。平成９年からは、将来の都心交通のあり方を探るため、「都心部交通実験プロジェクト」に取り組み、従来の啓発中心の活動から、具体策の展開へと一歩踏み込んだ活動を実施している。
目的・ねらい 目的・ねらい 対象交通 など	都心循環バス、都心内 100 円バス ●目的・ねらい：都心内での利便性の高い交通手段を確保し、街を訪れる方の回遊性を向上させる。 ●対象交通：バス 魅力ある歩行空間 ●目的・ねらい：歩行を都心内での重要な交通手段と位置づけ、歩行者に配慮した快適な歩行環境を創出することで、コミュニケーションや賑わいある都心空間づくりを目指す。 ●対象交通：歩行者 荷さばきのタイムシェアリング、路上荷さばきのルール化、共同荷さばき駐車場 ●目的・ねらい：荷さばき車と一般車が一体となり渋滞が慢性化している状況を改善するため、荷さばき駐車を整序化するルールづくりを行う。 ●対象交通：荷さばき車両
取り組みの経緯 経緯・熟度 など	平成元年 11 月 札幌市都心交通対策協議会の設立 都心における道路渋滞、違法駐車、自動車公害等の交通問題を改善する対策の検討を目的として設立。平成３年度に提言書を札幌市へ提出。 平成４年３月 札幌市都心交通対策実行委員会の設立 上記提言を具体的に実行するための官民一体の組織として設立。 平成９年５月 都心部の活性化を図り、人と車が調和した快適な都心環境を整備するため、新たな実験的な取り組みを始めることを決定。以降、札幌市と共同で実験に取り組んでいる。
主体・広報・費用 実施主体 検討組織 広報スケジュール 費用負担 など	●実施主体：札幌市と札幌市都心交通対策実行委員会の共同実施。 ●検討組織：都心交通関係者（地元商業者、運輸業者、町内会、行政機関）及び学識経験者、一般市民で構成する。 ●広報：報道機関への情報提供 ・テレビ・ラジオ等広報番組、広報誌など市広報媒体の利用 ・看板の設置、ポスターの掲示、パンフレットの配布 ・実験関係者（地元商業者、運輸業者、行政機関等）を通じての周知 ・交通安全広報車の巡回 ・街頭放送の実施 ●費用負担：札幌市及び札幌市都心交通対策実行委員会構成団体（地元商業者、運輸業者）からの拠出

実施概要	都心循環バス、新都心 100 円バス
対象地域 実施日時 施策内容 など	平成 9 年秋以降、期間、ルート、季節を変えて合計 6 回（平成 9 年 10 月、10 年 2 月、7～8 月、9 月、11 年 2 月、10～12 月）の実験を実施。平成 12 年度からは、既存の路線バスを利用し、都心内エリアに限り料金 100 円とする「都心内 100 円バス」の運行実験を実施。 魅力ある歩行空間 平成 10 年と 11 年夏の 2 回、都心部の仲通り（通称「シャワー通り」）で実験を行い、歩道の段階的な拡幅に合わせて、歩道を花木で飾るなどの魅力付けを行い、地元商店街によるイベントを実施。 荷さばきのタイムシェアリング、路上荷さばきのルール化、共同荷さばき駐車場 平成 9 年秋からタイムシェアリングを実施。 平成 12 年度には、従来のタイムシェアリングの時間帯区分に加え、一方通行路線の右側車線を「荷さばきレーン」、左側車線を「自粛レーン」とルール化し、路上に荷さばき駐車スペースを確保し、共同荷さばき駐車場として活用する「共同荷さばき駐車場」の実験を実施。
効果測定内容	都心循環バス、新都心 100 円バス
測定内容 効果把握 など	「都心循環バス」 - 乗車実績 時期により利用者数の変動幅は大きく、大イベント時の利用は特に多い。 - 運行状況 予定通り運行できない場合が多い。（状況は時期、路線、天候、イベントの有無などによって大きく左右される） - 利用者の評価 実験開始時から都心循環バスに対する満足度は高く、都心内短距離移動手段の有効性が認められる。（都心循環バスを利用した感想：「大変良い」「良い」が 8～9 割） 「新都心 100 円バス」 - 乗車実績（バス利用者数実績） 全路線平均で平常に比べて夏季で 2.3 倍、冬期は 2.2 倍 - 利便性の向上（利用実態調査） 都心内 100 円バスを実施しない場合の移動手段について、利用者の 8 割がバス以外の手段での都心内移動を考えていた。（移動手段の選択肢が増え、利便性が向上） - 回遊性の向上（利用実態調査） 8 割弱が、都心内 100 円バスの利用により都心の中での移動が増えたと回答。（回遊性の向上が期待） - 公共交通の利用促進（利用実態調査） 利用者の 94% が今後も利用する意思（公共交通の利用促進に効果） - 自動車利用の意向変化（一般アンケート調査） 自動車ですでに都心に来ている来街者のうち、33% が「バスが身近に利用できるようになり、バスの利用が増え、自動車の利用が減る」と回答。（自動車から公共交通への転換が期待） 魅力ある歩行空間 - 街を訪れた市民や事業者、ドライバーに対して意識調査を実施。

	荷さばきのタイムシェアリング、路上荷さばきのルール化、共同荷さばき駐車場 「荷さばきのタイムシェアリング」 ・実験の継続的な実施により、日常的な取り組みとして定着化。 「路上荷さばきのルール化」「共同荷さばき駐車場」 ・路上荷さばき実態、荷さばき駐車場状況及び区域内のバスの走行速度を調査 ・平均荷さばき駐車時間：事前 14.6 分→実験中 12.2 分 ・実験区域内走行速度平均：事前 18.5km/h→実験中 24.0km/h
取組上の課題	都心循環バス ・走行環境の改善による定時性の確保 魅力ある歩行空間 ・道路機能の明確化、機能に見合った道路空間の再配分 ・民地の活用や法制度の運用による通りの魅力づけや界隈性の演出 荷さばきのタイムシェアリング、路上荷さばきのルール化、共同荷さばき駐車場 ・一般車の違法駐車対策の徹底 ・路上荷さばき駐車場利用の費用負担 ・路上荷さばきに関する現行法上の限界
その他特記事項	
今後の方向性 地域指定 等	

以上

都道府県市名 : 北海道札幌市
 担当部局名 : 企画調整局総合交通対策部交通企画課